YUSENJI
TAKIGAHARA
OGOYA
YOKAICHIJIKATA
HANASAKA
OSUGI
KANAGASO

小松で
ずっと昔から続いてきた
石にまつわる物語

KOMATSU STONE BOOK

Gem&Stone
KOMATSU
JAPAN HERITAGE

JAPAN HERITAGE
日本遺産

KOMATSU STONE BOOK
2016年11月発行
2024年 9 月改訂
発行:小松市役所 文化振興課
〒923-8650 小松市小馬出町91番地
TEL:0761-24-8130

こまつ観光ナビ 検索

石の文化が見学できる施設の紹介や
動画も配信しています

わたしたちの

大好きな宝石も九谷焼も建物も、

みんな長い長い石の歴史から

始まっていたとは…！

CONTENTS

03　弥生人のものづくりを拝見

04　こまつの石文化ストーリー

06　こまつの石を学ぶ

08　こまつの石「観音下石」と「滝ヶ原石」を知る

10　石を眺めに那谷寺に行こう

12　近場にちょっと森林浴へ　石トレッキングのススメ

16　建築ガールmeets
こまつのかわいい石建築

18　Roots of KUTANI
九谷焼はこまつの石
「花坂陶石」からうまれる

22　KOMATSU STONE
AREA MAP!

2016年
日本遺産認定！

2016年、文化庁が認定する「日本遺産」に選ばれたのが、小松市の『「珠玉と歩む物語」小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～』です。

こまやかな手仕事がうつくしい…

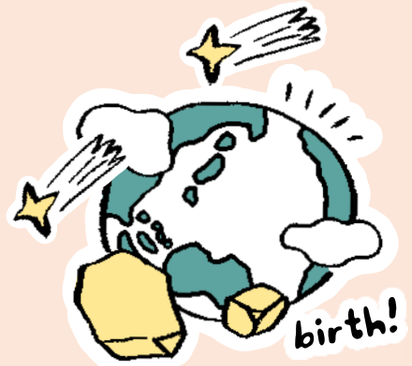
弥生人のものづくりを拝見

八日市地方遺跡から出土した「碧玉製管玉製作工程資料」

弥生人のスーパー技術の証として知られているのがこの碧玉の管玉。緑色の宝石として重宝されていた碧玉を当時の最先端技術で加工し(2ミリの円柱に石の針で開けられた1ミリの穴!)、翡翠の勾玉と組み合わせて首飾りが作られ各地に流通していたのだという。この当時から、こまつの“ものづくり”が全国に注目され、今でも継承されているなんて驚き!

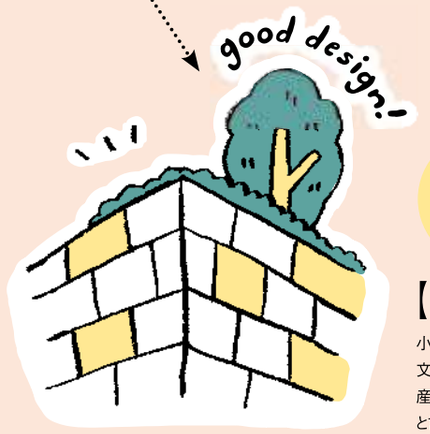
こまつの石文化ストーリー

日本遺産に認定された「こまつの石文化」。その物語は遥か昔…およそ2000万年前から始まっていたのです！そこから現代へと脈々と続いてきた石のストーリー…少し一緒にたどってみましょう。



❶小松エリアが鉱物の宝庫に

急激な地殻変動により、日本海側は火山活動が活発に。それに伴い、金や銅の鉱石、碧玉（へきぎょく）、メノウ、水晶等の宝石や、九谷焼の原材料となる陶石等さまざまな鉱物が多く生み出されました。



【加賀前田家三代利常公】

小松が誇る貴重な文化遺産や伝統産業の礎を築いたと言われている。

❸美しい石のパッチワーク

前田利常公の隠居城として建てられた小松城の本丸やぐら台は切り込みハギと呼ばれる当時最新の工法を使い、美しく積み上げられています。小松の鵜川石や金沢の戸室石が用いられていて、さながら石のパッチワークのような仕上がりに！

❷全国で重宝された「緑」の装飾品

流紋岩で矢じりなどの石器を作っていた縄文時代。それから弥生時代になると、碧玉（へきぎょく）の管玉（くだたま）や翡翠（ひすい）の勾玉（まがたま）作りがスタート。八日市地方（ようかいちじかた）遺跡から出土した500kgを超える碧玉の中には、いくつもの精巧な管玉が！

❹鉱山で経済活性化

日本有数の銅の生産量を誇った尾小屋鉱山。経営に加わっていた横山家は加賀藩の家老の家柄で、その財力は、小松だけでなく加賀の経済や文化の継承の支えにもなりました。遊泉寺銅山を本格的に開発した竹内明太郎はのちに鉱山機械製造のため、小松製作所（現コマツ）を立ち上げることになります。

【竹内明太郎】

全国有数の銅山だった遊泉寺銅山を経営、のちに小松製作所を設立。建設機械や産業機械の世界トップクラスのメーカー「コマツ」の礎を築いた。

❺ジャパンクタニの誕生

【本多貞吉（さだきち）】

長崎・島原出身の陶工。およそ200年前、九谷焼の原材料となる花坂陶石を発見し、九谷焼再興のきっかけをつくることとなる。

明治時代にジャパンクタニと欧米で称賛された九谷焼の素となっているのは花坂地区で発見された花坂陶石。今でも昔ながらの技術は伝承され、陶石粉砕から九谷焼陶土ができるまでの工程がしっかりと守られています。

❻観音下石が全国へ

観音下（かながそ）石材の切り出しがこの頃始まり、関西や関東へ出荷されるようになりました。丈夫さと湿気への強さが魅力のこの石は、あたたかみのある黄色の風合いも特徴。国会議事堂をはじめとした多くの建築物でも使用されています。

❼現代に繋がる石文化

市内の様々な場面で出会える小松の石文化。
地元の石を使った石蔵や石塀、はたまたアーチ型の石橋群や石切り場に至るまで…様々な石の技術が身近な場面で発見できます。
この本を片手に小松の石めぐりにちょっとお出かけしてみませんか？

昭和～令和（現在）　大正時代はじめ　明治時代　江戸時代　安土桃山時代～江戸時代　縄文時代～弥生時代　今からおよそ2000万年前

なるほど！
石文化のストーリー

碧玉見つけた！
発掘時のまま
展示！

小松市観光交流センター「Komatsu九」ギャラリー

こまつの石文化の原点を知るなら、まずここからスタート。小松駅の東側にひろがる八日市地方遺跡は、今から2400年前の弥生時代に誕生、発展した北陸最大級の集落です。小松産の碧玉をつかった玉つくりが発展の原動力。新幹線小松駅の地下もまさに遺跡なのです！ショーウインドウをにぎやかに飾る土器の多くは「小松式土器」と呼ばれる独自デザイン。中央の衛星画像は、この土器が北陸新幹線ルートで東京にまで伝わっていることを示しています。今も昔も現在地を舞台に広域交流が生まれていたことを体感しましょう。

小松市土居原町13番地18　tel.0761-58-2775
㊡7:00～22:00 ㊡無休　㊎無料

実物が
見られる！

こうやって
作るんだ

土器の形の
九谷焼も

こまつの石を学ぶ

勾玉
づくりに
挑戦!!

小松市埋蔵文化財センター

弥生時代の玉つくり資料や古墳時代のハニワなど重要文化財を中心に、市内の遺跡から発掘された出土品の数々を公開しています。それぞれの細やかな解説を聞くこともでき、石文化や古くからのものづくりの歴史を学ぶにはうってつけ。子供も大人も楽しめる体験メニューもあります。

小松市原町ト77-8 tel.0761-47-5713　㊡9:00～17:00（入館は16:30まで）㊡水曜（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土・日曜日・祝日は開館）、年末年始 ㊎無料

古代の文化に
思いを馳せて…

Hello…

飛鳥時代の
石室が見もの！

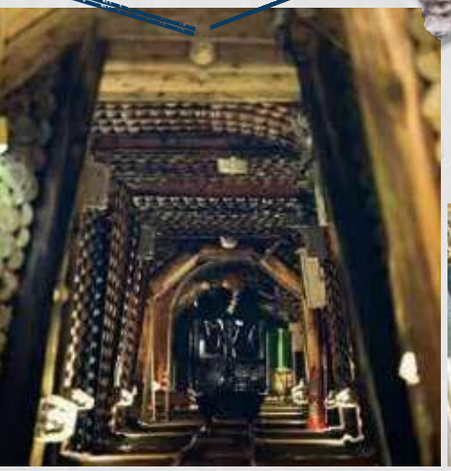
加賀国府ものがたり館&河田山古墳公園

令和5年にリニューアルオープン。「なぜ小松に国府が置かれたのか」をテーマに出土品を展示し、映像やイラスト、模型などをとおして小松の歴史を楽しく学べます。館中央と隣の古墳公園には、発掘された切石積横穴式石室が移設復元され、石の文化にもふれられます。国府にちなんだミニ古代体験もできますよ。

小松市国府台3丁目64 tel.0761-47-4533 ㊡営9:30～16:30（入館は16:00まで）㊡水曜（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土・日曜日・祝日は開館）、年末年始、展示替え期間 ㊎無料

イベント時には
トロッコの運行も！

追力
満点な
水晶！



尾小屋鉱山資料館&尾小屋マインロード

日本有数の鉱山だった「尾小屋鉱山」にまつわる資料館。鉱山関係の資料だけでなく、岩石や鉱物の展示も充実していて、歴史を感じるものや物語のあるもの、見ていてときめく美しいもの等々…。とっつきにくいイメージだった石の世界も、この資料館をぐるりと回ったころにはより身近に感じられているはず！資料を見た後は、実際の坑道を整備した尾小屋マインロードへ。採掘当時の空間を体感でき、ちょっとした冒険気分も味わえますよ。

小松市尾小屋町カ1-1 tel.0761-67-1122
㊡9:00～17:00 ㊡水曜（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土・日曜日・祝日は開館）、12/1～3/24の冬期休館
㊎500円（高校生以下無料）

ほっと癒される色味が特徴

湿気に強いこともあり、石蔵建築に多く選ばれました

国会議事堂や甲子園会館などにも使われています

ぬくもりある黄色に癒される！

大正初期から始まり、採掘されてきた浮石質凝灰岩の「観音下石」。独特な黄色と、熱や湿気に強くカビが生えにくい点が高評価を受け、市内では石蔵や石塀、彫刻などに、市外では数々の有名な近代建築物に使用されてきました。見た目と性質どちらも抜群の魅力を兼ね備えていることから、現在でも市内には黄色の石蔵が多数存在しています。

ガイド受付：小松観光ボランティアガイドの会
「ようこそ」 tel.0761-24-8394
（こまつ観光物産ネットワーク）

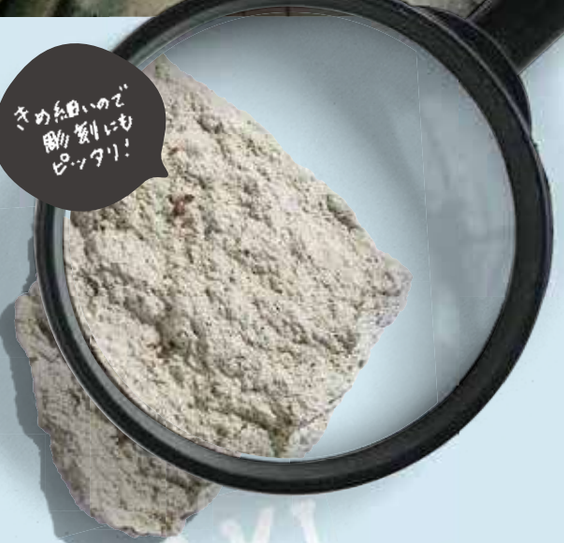
KANA GASO

こまつの石 観音下石（かながそいし）

滝ヶ原・菩提地区には、明治から昭和初期のアーチ型石橋が6橋残存

良質の石材を求めて迷路のように掘り進められた石切り場もあります

きめ細かいので彫刻にもピッタリ！



耐久性抜群で水にも強し！

那谷・菩提と並んで碧玉（へきぎょく）産地だった滝ヶ原では、現在、良質の緑色凝灰岩の「滝ヶ原石」が採掘されています。江戸時代に開かれた石切り場が多く、うち一か所がまだまだ現役。滝ヶ原石は青白くて水に強いのが特徴なので、鳥居や大型の石塔、意外なところではお風呂場の石にも使われているんです。

㊐滝ヶ原観光ネットワーク　tel.090-5680-1548

TAKI GAHARA

と 滝ヶ原石（たきがはらいし） を知る

石を眺めに那谷寺に行こう

様々な石がふんだんに…!

庫裡庭園（くり）

園内に配される庭石や飛び石には、碧玉やメノウ、水晶、オパールなど地元産の石類を使用。

那谷の地はメノウなどが産出され、室町時代には遣明船で中国・明へと献上されていました。

開創1300年を平成29年に迎えた古刹『那谷寺』は、国指定文化財を数多く有し、四季の変化に富んだ景色が人気で、大きな一枚岩の「奇岩遊仙境」が印象的。浅い洞窟には小さな石仏が鎮座し、まるで仙人が自然を慈しみ遊んでいるかのようにも見えます。自然智の里である那谷寺は四季折々でその表情を変えます。石と自然が持つ雄大なパワーを季節ごとに体感できるのも那谷寺の魅力。ほかにも境内には希少な石を配した「庫裡（くり）庭園」、本殿内の「いわや胎内くぐり」などがあり、「石」という観点から巡ってみてもきっと面白いはずですよ。

かの松尾芭蕉もかつて那谷寺を訪れ、「石山の石より白し秋の風」の句を「おくのほそ道」に記した。

那谷寺

tel.0761-65-2111 小松市那谷町ユ122
【拝観料】大人1,000円　小人300円　㊡無休
【拝観時間】9:15～16:00

「いわや胎内くぐり」はこの中!

岩山と繋がっている本殿は、岩壁に寄って建てられていて境内の中でも特に秀逸な建築。

秋は奇岩と紅葉のコラボレーションが圧巻!

奇岩遊仙境（きがんゆうせんきょう）

国指定名勝園。長い年月をかけ形成された奇岩。那谷寺が大切にする「自然智」の心を象徴するスポット。

琉美園（りゅうびえん）にある迫力ある自然石「三尊石」は岩面が3つに分かれ阿弥陀三尊の姿にもたとえられる。

近場にちょっと森林浴へ
石トレッキング のススメ

小松「ものづくり」の原点を感じられる遊泉寺銅山跡

江戸時代の安永5年には採掘が行われていた遊泉寺銅山。大正初期の最盛期には1000人近くがこの銅山で働き、遊泉寺は鉱山町として賑わいました。大正9年に役目を終えた銅山ですが、その貴重な遺産を後世に伝えようと市や市民たちの協力のもと、広場や遊歩道の整備が行われています。

遊泉寺銅山ものがたりパーク（里山みらい館）

2020年5月にオープンした里山みらい館。当時の写真や解説パネルなど、遊泉寺銅山の歴史を知る展示が楽しめます。常駐する地元の方からお話も聞けます。（要予約）
tel.0761-58-2710　小松市鵜川町丙152番地
㊐9:00～15:00　㊡月・水・金曜　㊎無料、一部有料

ものがたりパークから2つの登山道が整備。砂山の頂上からは小松市内を一望できます。

遊泉寺銅山の本格的経営を始めた竹内明太郎氏
小松製作所（現コマツ）の創業者

こちらもおすすめ！ 石トレッキング

大宮神社の石馬

曳手とセットの石像で、国府地区に同じような石像が多く見られます。石材は滝ヶ原石で、石工は中川一雄氏とされています。

ハニベ巌窟院

かつて小松城の石垣にも多用された鵜川石の産地で、トンネル状の大規模な石切り場跡を活用した観光施設。洞窟奥にはおびただしい数の彫塑が立ち並び、施設正面には高さ15mの仏頭がそびえ立ちます。
tel.0761-47-3188　小松市立明寺町イ1番地　㊐9:00～17:00（4～9月）、9:00～16:00（10～3月）　㊡無休
㊎大人 800円、小人（小中高生）500円

河田（こうだ）神社の扁額（へんがく）

かつて河田神社の鳥居に掲げられていた大型の扁額で、龍の見事な彫刻が施されています。扁額とは鳥居などの高い位置に掲げられる額のこと。石材は滝ケ原石で製作されています。

TOKO TOKO

1 十二ヶ滝

沢町・布橋町の下方付近にあり、このあたりの河床はすべて岩石。十二の筋に分かれて落下しているのが名前の由来です。

2 那殿（なでん）山のメノウ産出地

本殿の周辺は奇岩や窟状の地形が多く、古くから修行の場であったと推測されています。また、オパール・メノウの採掘地でもありました。

3 日用川の石垣

19世紀後半ごろ小松城石垣を修復にきた労働者が、日用の有川家に滞在し構築したと伝えられています。日本有数の苔の名所として高い評価を得ています。

4 荒俣峡

長い年月をかけて作られた奇岩のまわりを四季ごとに紅葉、新緑などが彩ります。それらが水面に映り、つくり出される渓谷美は「加能八景」にも選ばれるほど。

TREKKING

こまつの石を感じられるスポットのいくつかは緑豊かな自然に囲まれています。各石切り場付近や銅山跡、更に十二ヶ滝や荒俣峡などは、自然の中でゆっくり深呼吸してトレッキングするには最適！別世界に飛び込んだかのような独特の空気感で、ついついSNSに投稿したくなっちゃう絵になる場面の連続です。遊泉寺銅山跡はハイキングコースとして道も整備されているので、気軽な山登り気分も味わえますよ。石にまつわるスポットを探検して、長い歳月をかけて作られた自然の造形美を眺めながら、程よい距離感のトレッキングに汗を流す…そしてさらには森林浴まで！石トレッキングってかなりいいことづくしだと思いませんか？

5 滝ヶ原

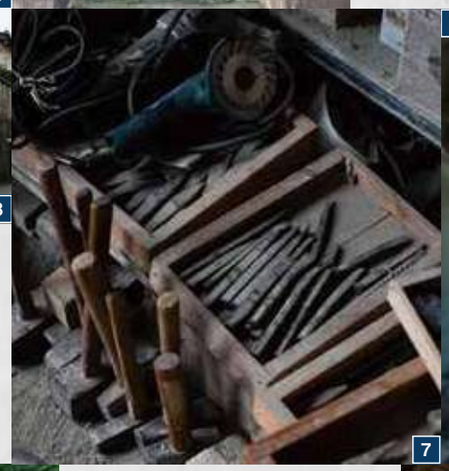
滝ヶ原には明治後期から作られた、アーチ型の石橋が5つ現存。そして切り出された岩肌が露出した、石切り場ならではの独特の風景が広がります。良質な凝灰岩が採取される場所として有名です。

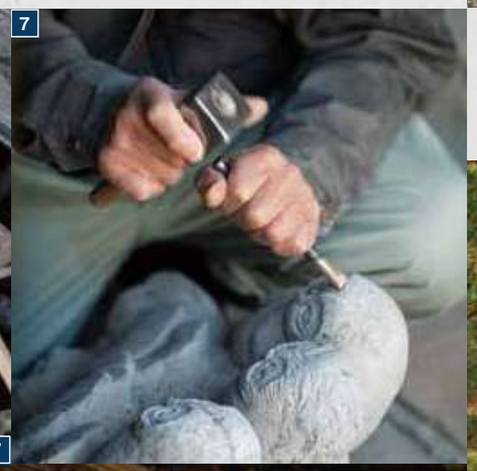
6 滝ヶ原八幡神社

地元滝ヶ原で製作された大型の鳥居。1890年に北海道に渡り、坂本木材合名会社を設立し富を築いた坂本竹次郎氏より、1944年に寄贈されたものです。

8 安宅慇念寺（みんねんじ）

日本海に臨む安宅慇念寺のたんころ石は地元凝灰岩をくり抜いた円形の建築部材。安宅町の町内には護岸や擁壁などに使用されています。北前船で各地へ移出した石材としても知られています。





7 滝ヶ原の石工

地元滝ヶ原石による彫刻作成技術保持者である石工・中谷篁（なかやたかひろ）氏。石工道具の博物館への寄贈や、後進への技術指導を行うなど、石工文化の保存にも寄与しています。

10 大杉石切り場

緑豊かな地にひっそりと佇む大杉石切り場。現在も切り出しが行われ、全国各地へ出荷されています。

9 観音山

観音下町から300m入った林道にある登山口には、高さ2mの観音地蔵が。555段の石段を上ると、山頂近くには観音像が祀られている観音岩窟があり、地元の信仰の対象となっています。

建築ガールmeets

こまつのかわいい石建築

建築好きな女子「建築ガール」と小松の石建築めぐりにいってきました！普通の女子ならわからない??玄人好みな石建築分析…彼女たちのコメントも参考に、あなたも石建築めぐりにでかけてみよう！

市井小雪さん
建築の中でも日本建築が好きで、木造の建物の美しさに惹かれるという。

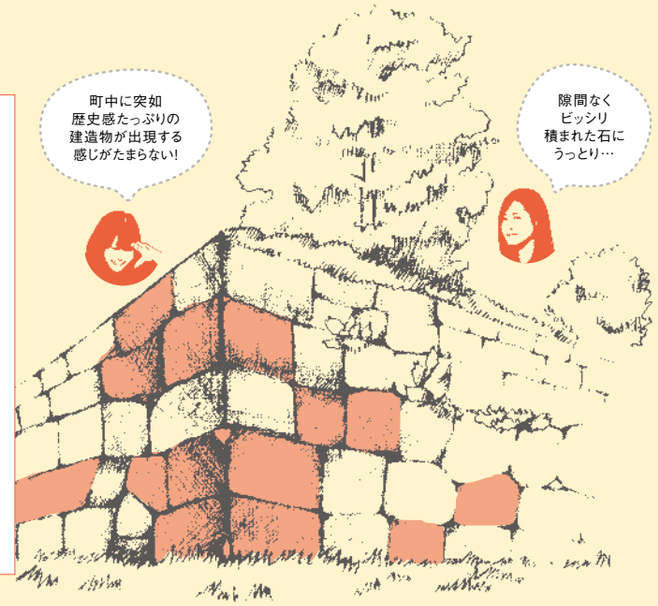
辻有那さん
ドライブしながら色々な建築物を眺めるのが大好きだという建築好きガール。

上条まどかさん
将来は身近な人の家を設計したり、まちづくりに関わったりしたいのだそう！

01 小松城 本丸やぐら台

加賀前田家三代前田利常公のこだわりが随所に反映された小松城。築城技術がピークに達していた時期に築かれただけあり、やぐら台には「切り込みハギ」と言われる切石を精巧に積み上げていく工法が用いられています。この石垣に使われているのは小松産の鵜川石と金沢産の戸室石。様々な石の色味のコントラストがとても美しく、利常公の美意識が反映された仕上がりにうっとり！

●小松市丸の内町（小松高校グラウンド内）



02 松雲堂

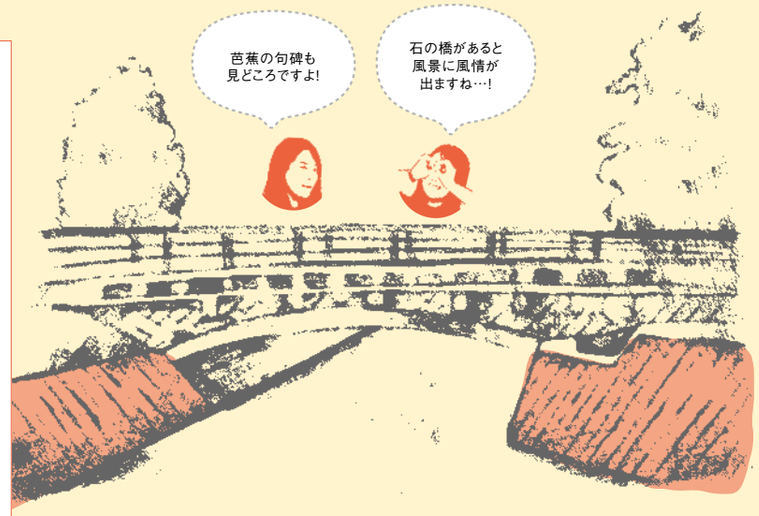
九谷焼の窯元として長く使われてきた建物を、一部改修し新たな現代町家として生まれ変わらせたのがこの『松雲堂』。建物の大部分は昭和8年に建てられた当時のものをそのまま活かしていて、造りもたたずまいも昭和初期の風情をたっぷりと感じさせてくれます。錦窯の展示スペースや観音下石と滝ヶ原石を使ったあたたかみのある石蔵も見どころのひとつ。

●小松市龍助町27　tel.0761-23-3413（こまつ曳山交流館みよっさで貸館受付）

03 すわまへ芭蕉公園 石のアーチ橋

空港軽海線沿いにある『すわまへ芭蕉公園』。敷地内には芝生や岩で造作された遊歩道を含む庭園、さらには琴平神社や松尾芭蕉の句碑も配置されていて、ちょっとした休憩にもぴったりです。中でも滝ヶ原石で作られたアーチ型の石橋は、町並みにも美しく溶け込み、石の文化を彷彿とさせる新名所となっています。

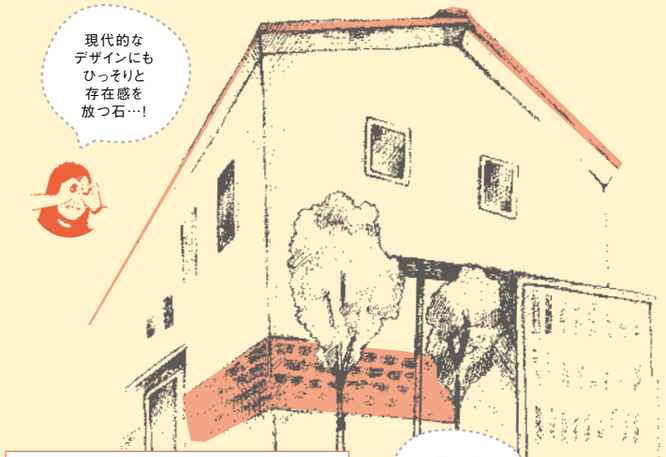
●小松市浜田町（蒐橋神社向かい）



04 東酒造株式会社

造り酒屋『東酒造』には国登録有形文化財が軒を連ねます。中でも観音下石を積み、アーチと龍虎の彫り物で美しく象った道具蔵は美しく、通りからでもじっくりと眺めることが可能。石蔵は断熱効果が高く、酒を造るための環境にはうってつけ。1860年の創業から変わらず守り続けてきた酒の味と酒蔵、どちらもじっくりと堪能してみよう！

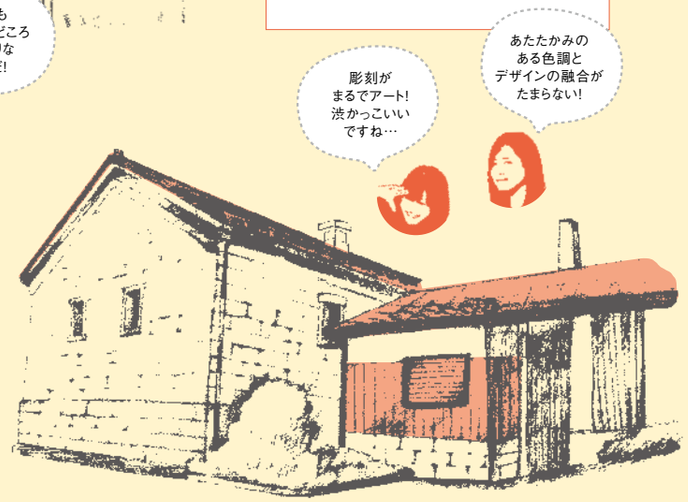
●小松市野田町丁35 tel.0120-47-2302



05 宮本三郎美術館

小松市出身の画家宮本三郎の作品を所蔵する美術館。建物は鉄骨でできた新設棟と元々石蔵だったものを活かした倉庫棟からなり、既存の石蔵を漆喰でよりスタイリッシュに仕上げた倉庫棟は道路沿いから眺めても美しく、ずっしりとした重厚感で存在感も抜群。まちなみ景観の向上にも一役買っています。

●小松市小馬出町5番地
tel.0761-20-3600



谷口製土所では、「トロンミル」というミキサーのような装置や、粘土を脱水するフィルタープレスなど、作業のほとんどが機械化されています。

Taniguchi Seidosho

谷口製土所

小松市若杉町にある九谷焼製土所。先代から技術を受け継ぎ、現在は3代目の谷口浩一さんへとバトンを繋いでいます。花坂採石場での採石作業の後、複数の機械と地道な手作業で九谷焼用の粘土は作り上げられています。

●小松市若杉町ワ124番地　tel.0761-22-5977
㊗8:00～17:00　㊡日・土曜（土曜の営業日あり）

色絵が特徴の九谷焼の中で、あえて上絵のない白い九谷焼を提案しているテーブルウェアブランド「HANASAKA」。

【花坂陶石】
hanasaka-touseki

石の構造がスポンジのようにいくつかの空洞を有していることが顕微鏡で覗くとよくわかります。給水性があり、粘土にしたときの粘り気が高いことから、細やかな作業にも適しています。焼き上がった素地の色味は少しグレーと青みを帯びた白色で独特の美しさを持っています。

ジャパンクタニに欠かせない「花坂陶石」を知る。

およそ200年前、江戸後期に陶工本多貞吉（さだきち）によって陶石としての利用方法が発見された花坂陶石。「陶石」とは火山活動でできた流紋岩が熱水作用によって中に含まれた鉄分などの不純物が流されて白色になったもので、日本の産地は出石、砥部、有田、天草、そして小松の花坂のわずか5か所しかないそうです。この石が素となる粘土を用いて作られるのが、国内色絵磁器の最高峰「九谷焼」です。市内製土所では陶石粉砕から九谷焼陶土ができるまでの昔ながらの工程が受け継がれており、今は「谷口製土所」と「二股製土所」の2軒のみが現存しています。九谷焼をもっと多くの人に知ってもらうため、製造工程の公開や観光客の受け入れなどを行い、活性化を推進しています。

Roots of KUTANI

九谷焼はこまつの石「花坂陶石」からうまれる

Futamata seidosho

二股製土所

明治創業の二股製土所。小松市内に2軒ある九谷焼原材料の磁器杯土（粘土）を製造する工場の一つで、花坂陶石を粘土に加工する一連の作業を間近で見学できます。細かく刻んだ陶石の粘土分と砂分を分離する作業や、余分な鉄分を取り除き空気を抜いて固め粘土に仕上げる工程などを見られる貴重な施設です。

●小松市立明寺町イ128-2　tel.0761-47-3123
㊗9:00～17:00 ㊡土日祝、年末年始、お盆時期

九谷をより身近に感じられる施設へ。

花坂地区から少し北の八幡にある『登窯展示館』では、市内唯一の現存する登窯を見ることが可能です。もう一つ押さえておきたい施設は『錦窯展示館』。こちらでは上絵付の窯である「錦窯」や、歴代徳田八十吉の作品をはじめとする九谷焼の名品が展示されています。2019年にオープンした九谷セラミック・ラボラトリーでは希少な陶石からの土作りを見学でき、施設内の体験工房では、ろくろを使った器づくり体験や絵付け体験を通じ九谷焼の魅力に触れられます。九谷焼の歴史と石の歴史、どちらも少しずつ辿ることで、より深く九谷焼を知るひとつのきっかけになるかもしれません。

【九谷の陶彫】
Kutani no touchou

「陶彫」とは文字通り陶磁で人物や動物、仏像などをつくる技法。指定文化財「登窯」と関係の深い資産です。九谷では明治以降に生産が始まったとされ、特に小松市八幡は優れた先駆者により発展した地。勝木作太郎など、多くの名工を生み出し今に受け継がれています。

Nishikigama

Nishikigama Tenjikan

錦窯展示館

人間国宝三代徳田八十吉の生家であり、初代から三代までが九谷上絵付にいそしんだ陶房でもあった町家を改修。落ち着いたたたずまいの中で作品や錦窯を見学できます。

●小松市大文字町95-1　tel.0761-23-2668
㊐9:00〜17:00（入館は16:30まで）㊡水曜（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土・日曜日・祝日は開館）、年末年始、展示替え期間 ㊒一般300円 高校生以下無料

Noborigama Tenjikan

登窯展示館

昭和40年ごろまで使われていた、素地焼成する本焼段階の窯「連房式登窯」を展示。近代九谷磁器窯の典型的形式を今に伝える貴重な遺産として、昭和48年には市の指定文化財にも指定されました。企画展や体験企画などもあり。

●小松市八幡己20-2 tel.0761-47-2898
㊐11:00〜15:00（入館は14:30まで）㊡月曜（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（日曜日・祝日は開館）、年末年始、展示替え期間 ㊒無料

Noborigama

撮影:鶴見 絵里沙（@kanazawalife_is_wonder）

Cerabo Kutani

セラボクタニ

九谷セラミック・ラボラトリー（通称:CERABO KUTANI）は、小松市が誇る石文化と、九谷焼の美と技を体感できる施設として、隈研吾氏の設計で令和元年に設立されました。九谷焼作家の作品や、産地ならではの窯元商品が並ぶ販売スペース、花坂陶石が陶土になるまでの過程を垣間見られる製土工場を併設した九谷焼の体験施設です。

●小松市若杉町ア91番地　tel.0761-48-4235　㊐10:00〜17:00（最終入館16:30）
㊡夏季4〜11月:水曜定休、冬季12〜3月:火水曜定休・年末年始 ※水曜が祝日の場合は開館、翌平日が休館　㊒一般 300円、学生（高校生以下）150円

Cerabo Kutani

60年に渡って九谷焼づくりに欠かせない磁器土を製造してきた製土工場が施設内で実際に稼働しており、花坂陶石の粉砕から陶土が完成するまで、質の高い磁器土を製造する工程を間近で見学できます。

九谷焼作家の絵付けされた作品や、窯元組合の白い素地などが購入可能です。絵付け前の白い素地は今まで一般に流通することはなく、たくさんの白地の器を見て購入できるのは産地ならでは。

← セラボクタニ HPはこちら

KOMATSU STONE AREA MAP!

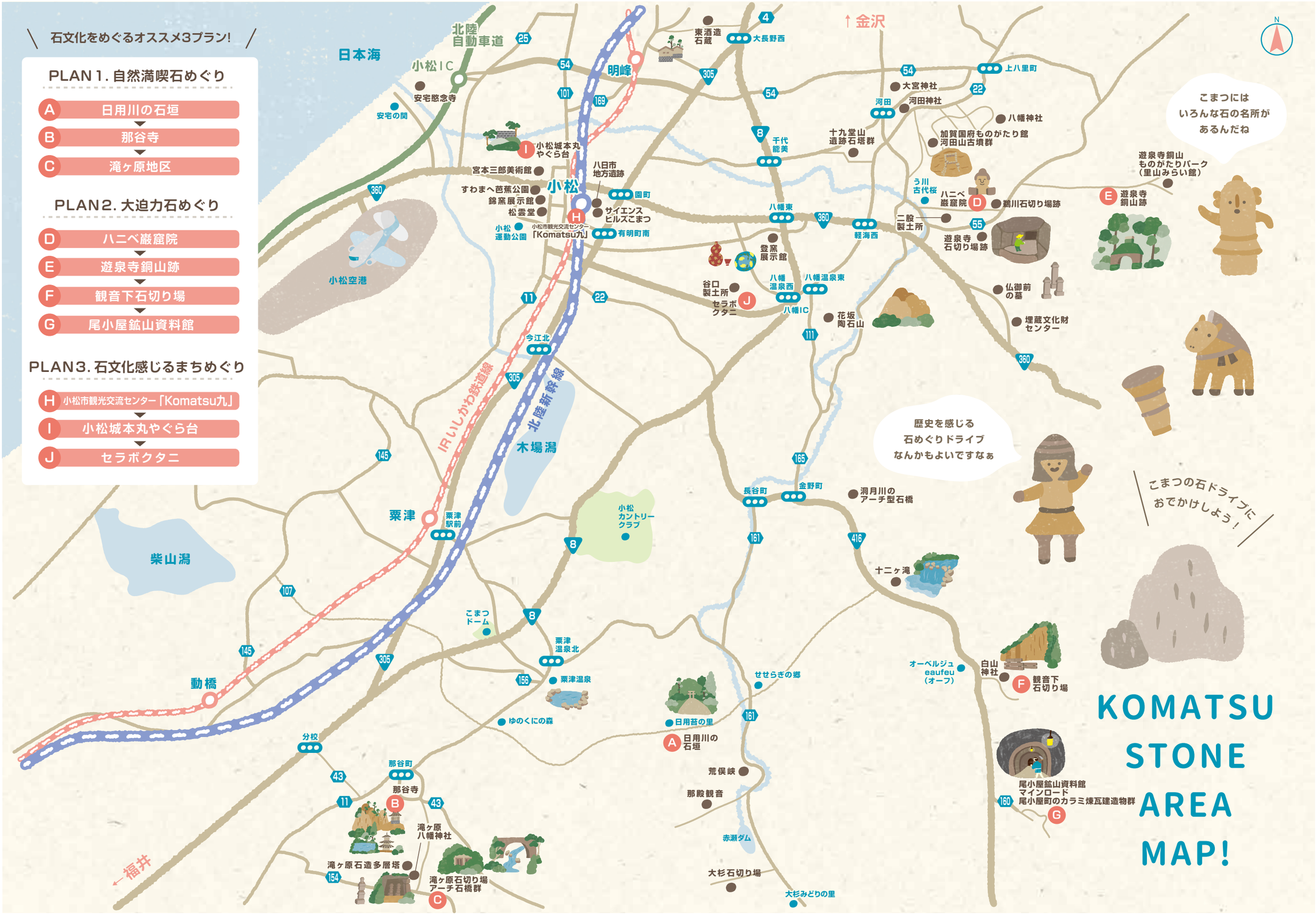
石文化をめぐるオススメ3プラン!

PLAN 1. 自然満喫石めぐり

- A 日用川の石垣
- B 那谷寺
- C 滝ヶ原地区

PLAN 2. 大迫力石めぐり

- D ハニベ巌窟院
- E 遊泉寺銅山跡
- F 観音下石切り場
- G 尾小屋鉱山資料館

PLAN 3. 石文化感じるまちめぐり

- H 小松市観光交流センター「Komatsu九」
- I 小松城本丸やぐら台
- J セラボクタニ